

地域活性化のためのサッカースタジアムの有効活用に関する研究
-J クラブがホームスタジアムに指定するスタジアムに着目して-
Research of Effective Inflection of Soccer Stadiums Aim to Region Activation
- Attention to Stadiums in home stadiums of J league -

○中山恭一¹, 根上彰生², 長岡篤²

*Kyoichi Nakayama¹, Akio Negami², Atsushi Nagaoka²

Abstract: As the popularity of football is improved, many of the football stadium has been constructed and renovated. However, it can be said that the management and operation of these stadiums have some problems. In this study, we suggest the use method of the football stadium that contribute to local activation.

1. 背景と目的

1993年に公益社団法人日本プロサッカーリーグ(以下Jリーグ)が開幕し, 20年以上が経過している. その間, サッカーの人気は向上し, 多くのサッカースタジアムが建設, 改修されてきた. しかし, 建設後の管理・運営には大きな問題があるといえる. 建設費, 土地代, 維持・管理費などが莫大にかかるため, Jクラブはスタジアムを所有することはほとんどなく, ホームタウンである自治体が所有しているものの, 整備や備品の質, 運用の自由度, 交通のアクセスなどの点で課題がある. また, Jクラブのサッカースタジアムでの試合は一年間に20から30試合ほどしかなく, スタジアムを所有している自治体は維持費が莫大であると言われている. そのため, サッカースタジアムは公共施設であることが多いにも関わらず, 地域住民が使用する頻度が少なく, 公共施設としての役割を十分に果たしているとはいえない.

そこで本研究では, Jクラブが使用するサッカースタジアムの建設経緯や活用状況を把握することで, 地域活性化に資するサッカースタジアムの活用方法を提案することを目的とする.

2. 研究手順

Jクラブがホームスタジアムに指定している全50スタジアムの概要を整理し, 所有者に対してのアンケート調査を実施する. その中で, 有効活用されていると考えられるサッカースタジアムの所有者・管理者に対してヒアリング調査を実施し, その要因について明らかにすることで, 今後のサッカースタジアムの有効な活用方法の提案をする.

3. 50のスタジアム概要

日本のサッカースタジアムは収容人数の規模などによりクラス分けがされており, クラスによって開催できる試合が異なる. そこで, 50スタジアムを活用に関係すると考えられるタイプ, クラス, 完成年, 指定管理者制度, ネーミングライツ

についてまとめ, Table1 に示す.

Table1. Outline of 50 Stadiums

タイプ	クラス	完成年	指定管理者制度	ネーミングライツ
陸上競技場	S:5 1:17 2:3 3:5 4:0	1990年以前:15	導入:26 未導入:4	導入:19 未導入:11
		1990年以降:15		
サッカー専用スタジアム	S:3 1:13 2:1 3:1 4:2	1990年以前:6	導入:14 未導入:6	導入:12 未導入:8
		1990年以降:14		
合計	S:8 1:30 2:4 3:6 4:2	1990年以前:21	導入:40 未導入:10	導入:31 未導入:19
		1990年以降:29		
クラスS:FIFAワールドカップ, AFCチャンピオンズリーグ決勝 収容人数:40,000人以上 クラス1:AFCチャンピオンズリーグ, Jリーグデビジョン1 収容人数:20,000人以上 クラス2:Jリーグデビジョン2 収容人数:15,000人以上 クラス3:全日本女子サッカー選手 収容人数:5,000人~15,000人 クラス4:地域リーグ決勝大会 収容人数:~5,000人 日本サッカー協会の資料を基に筆者作成				

① タイプ

サッカースタジアムは, 陸上競技場とサッカー専用スタジアムの2種類に分類できる. 陸上競技場はサッカー専用スタジアムに比べピッチまでの距離が遠く, 観戦時の臨場感は落ちてしまうが, 各種陸上大会, その他スポーツ大会に使用することなどができ, 立地などの条件を満たせば集客力のある大型のライブコンサートなどを開催することも可能である.

② クラス

クラスSのサッカースタジアムは2002年に日本と韓国で開催されたFIFAワールドカップに向けて建設されたサッカースタジアムがほとんどである. クラス1のサッカースタジアムはJリーグの開幕や国民体育大会などに向けて建設されたものが多く, クラス2, 3, 4のサッカースタジアムはほとんどが国民体育大会やスポーツ振興を図るために建設されたものであった.

③ 完成年

陸上競技場は1990年以前に建設, 改修されたスタジアムが15スタジアム, 1990年以降に改修されたスタジアムが15スタジアムであるのに対し, サッカー専用スタジアムは1990年以前に建設, 改修されたスタジアムが6スタジアム,

1990 年以降に改修されたスタジアムが 14 スタジアムであった。陸上競技場は国民体育大会や都市公園の一環として 1990 年以前に建設されたスタジアムが多いのに対し、サッカー専用スタジアムはJリーグやFIFAワールドカップに向けて 1990 年以降に建設されたスタジアムが多い。

④ 指定管理者制度

40 のサッカースタジアムが指定管理者制度を導入している。指定管理者制度を導入した目的は歳出の削減であり、民間のノウハウを生かした施設管理を行うことで、利用者の満足度向上につながっている。一方で指定管理者制度を導入していない理由としては、現在の管理方法に満足していることや、指定管理者制度を導入することにより、現在行っている活用方法ができなくなる可能性があるためであった。

⑤ ネーミングライツ

31 のサッカースタジアムがネーミングライツを導入している。ネーミングライツを導入した目的は歳出の削減であり、名称を変更したことでスタジアムの認知度向上につながる場合もあった。一方でネーミングライツの導入していない理由としてはスタジアム名を変えることにより、愛着度が下がってしまう可能性があるためであった。

4. 活用の分析

前章を踏まえ、タイプ、完成年の異なる4つのサッカースタジアムに着目し、タイプと指定管理者制度の観点から活用状況について考察を行った(Table2)。

①タイプ

サッカー専用スタジアムは芝の維持管理の問題から、活用頻度が限られており、ピッチ上での利用は週末に開催されるJリーグや各種スポーツ大会に限られている。しかしカシマサッカースタジアムでは付属施設を活かしたスポーツジムを開設しており、年間 335 日使用されている。また、この他にもフリーマーケット、ビアガーデン、結婚式などさまざまな場面でサッカースタジアムは利用されている。

陸上競技場は陸上トラックを日常的に使用できることから、サッカー専用スタジアムに比べ使用頻度が多い特徴がある。週末に開催されるJリーグや各種陸上競技大会に加え、イベントがない日はほぼ毎日陸上トラックを開放してお

り、市民ランナーや地域の部活動等で使用されている。デンガビックスワンススタジアムでは地域住民向けのスポーツイベントを開催しており、サッカー専用スタジアムに比べ、様々な用途で使用することが可能である。

②指定管理者制度

指定管理者制度を導入しているスタジアムは民間のノウハウを生かした施設管理を行っているため、様々なイベントを行っており、利用日数も増え、利用者の満足度向上につながっている。

一方で指定管理者制度を導入していないサッカースタジアムは指定管理者制度を導入しているスタジアムに比べ活用日数が減ることが多いが、Shounan BMW スタジアムのように陸上トラックを開放するなど創意工夫によって、スタジアムを有効活用できる可能性はあると考えられる。

5. まとめ

サッカー専用スタジアムでは、芝の維持管理の問題からピッチ上でのイベントが行えないため、活用が限定される課題がある。しかし、ピッチ外のスペースの活用方法を工夫することにより、カシマサッカースタジアムのように地域活性化に寄与するスタジアム運営が可能になるといえる。

陸上競技場ではスポーツ大会などが開催されていない際に陸上トラックを開放することが可能であり、陸上トラック開放の有無により利用者数で大きな差がみられたことから、陸上トラックの開放は可能な限り実施する必要がある。

また、指定管理者制度を導入することで、イベントの種類が充実し、多くの地域住民がスタジアムを訪れていることから、指定管理者制度の導入は効果的といえる。

参考文献

[1] 濱田 省吾「Jリーグスタジアムのマネジメントの改善に関する - 考察 - スタジアムの管理運営制度に着目して -」2006 年 早稲田大学スポーツ科学部 卒業論文要旨集

[2] 熊谷 亮, 斎藤 洋平「サッカースタジアム施設の付属实態 - 日本・ドイツ・英国のプロリーグ及びW杯使用スタジアムを対象として」2004 年 日本建築学会大会学術講演集 PP533-534

Table2. Outline of 4 Stadiums

スタジアム名	タイプ	完成年	所有者	管理者	建設経緯	指定管理者制度 (契約金額)	ネーミングライツ (契約金額)	維持管理費 (年間)	年間延べ 利用日数	年間延べ 利用者数	活用内容
あきぎんスタジアム	サッカー専用 スタジアム	1954年	秋田市	秋田市	昭和29年 秋田市総合計画の一環	未導入	導入 (約300万円)	約3800万円	74日	78,543人	Jリーグ、秋田県サッカー県大会 ラグビー、健康のつどい
Shounan BMW スタジアム平塚	陸上競技場	1982年	平塚市	平塚市	平塚市制50周年の一環	未導入	導入 (約1500万円)	約8000万円	約500日	354,000人	Jリーグ、各種陸上大会 陸上トラック開放
茨城県カシマ サッカースタジアム	サッカー専用 スタジアム	1993年	茨城県	株式会社 鹿島アントラーズFC	賑わいの場や交流の場を創出 サッカーを通じた地域交流	導入 (約5700万円)	未導入	約2億8800万円	471日	439,782人	Jリーグ、茨城県サッカー県大会 ウェルネスプラザ、結婚式 ビアガーデン、フリーマーケット
デンガビックスワ ンススタジアム	陸上競技場	2001年	新潟県	アルビレックス新潟 都市緑花 センターグループ	日韓W杯開催に向けて	導入 (約2億300万円)	導入 (約7000万円)	約3億1000万円	612日	553,183人	Jリーグ、日本代表戦 各種陸上大会、陸上教室 陸上トラック開放、ラグビー

アンケート調査を基に筆者作成